

ふるさと わがまち わが地域

弥栄町 和田野地区



公民館:京丹後市弥栄町
和田野558
電話:0772-65-2530
(FAX兼用)

地区概況

国道482号から府道656号線を竹野川沿いに北上して、最初に見える集落が和田野地区です。当地区の世帯数は299世帯、818人(平成25年7月末現在)で、平成24年3月1日より21の隣組を1組15軒前後とする17組に再編しました。



方格規矩四神鏡

大田南五号古墳から平成6年(1994年)に出土した青龍3年(235年)方格規矩四神鏡。邪馬台国の所在地をめぐる論争の重要な資料として、全国の注目を集めました。

大田南古墳群

出土はここから



地名の由来(三つの説)

和田野は、往古恒枝保(つねえだほ)と呼ばれていたが、いつの時代に現在の地名になったか定かでない。大永の頃(1521~1527年)和田氏の居城(愛宕山頂の和田野城)があった。だから「和田野」という説。当地は、往古より吾野(わだのまたはあがの)と称してきた。それが和田野になったという説。「ワタ」(和田)とは海の波のように、腸のようにうねうねと曲がりくねったものを指す語で、それから転じて川や湖岸や海岸の曲がっている所にもつける地形語(澤潔氏の「丹後半島の旅」)ともなっている。そこから名づけられた地名という説。萩原勉「恒枝保」考より抜粋



西方寺裏山から見た和田野区中心部。背景は金剛童子山



府道656号線より集落を望む



和田野公民館



本堂



山門

長安山西方寺

往古は、中郡橋木村真言宗発貴山縁城寺の末庵阿弥陀堂。承応3年(1654年)丹後国宮津町智源寺の末寺となり真言宗から曹洞宗にかわり、その後、寛文9年(1669年)現在地に建てられた。



和田野地区国営団地

写真は、にんにく(左)、甘藷(中央)、小菊(右)の栽培風景

丹後国営農地開発事業(宮津市・現在の京丹後市六町の里山)は、昭和50年の基本調査から始まり、平成14年11月全域が完了しました。和田野団地は、平成3年に21haの面積で、葉タバコ、大根、カブラ、甘藷等の栽培を行っていましたが、現在は、葉タバコがなくなり大根、カブラ、甘藷、にんにく、小菊等を栽培しています。



休憩をしながら、136段の石段と坂道を登ると、愛宕神社にたどり着きます。



愛宕神社

祭神 迦具津智命(かぐつちのみこと) 崇徳天皇
毎年7月24日に祭事が行われています。
今は、小学生や保育園児の「火の用心」の塗り絵を飾り、火災防止を祈願しています。大槻宮司のお祓いの後、子供たちは地区公民館に移動し、ビンゴゲーム等で楽しい時間を過ごします。



丹後大震災の七回忌に、西方寺境内に建てられた震災供養塔

昭和2年3月7日午後6時28分に発生した丹後大震災では、35名の方が亡くなりました。全国から心のこもった義援金や慰問袋が届けられました。
今、和田野区でも自主防災組織を立ち上げ、災害に対処できるまち創りに取り組んでいます。



京丹後市の職員を講師に招き行った、サロン活動での自主防災研修風景